

辻堂市民センター再整備（南消防署辻堂出張所（第10分団）等）

地区全体説明会 次第

2017年(平成29年)1月21日(土)
午前10時00分から11時30分まで
辻堂市民センター ホール

1 開会

2 議題

辻堂市民センター・公民館、消防出張所改築事業について

3 質疑応答

4 閉会

事務担当：市民自治推進課

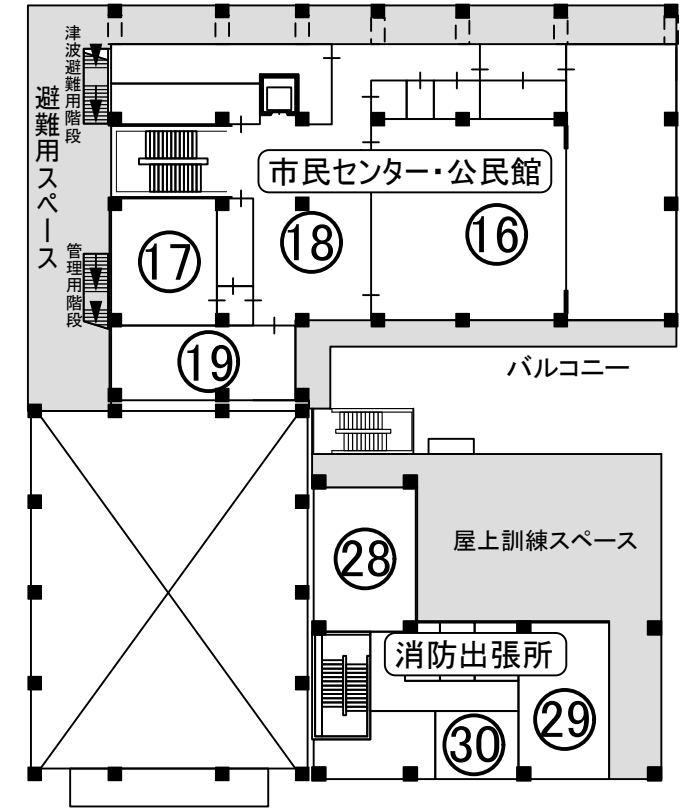
辻堂市民センター

※この資料は検討段階のものであり、変更になる場合があります

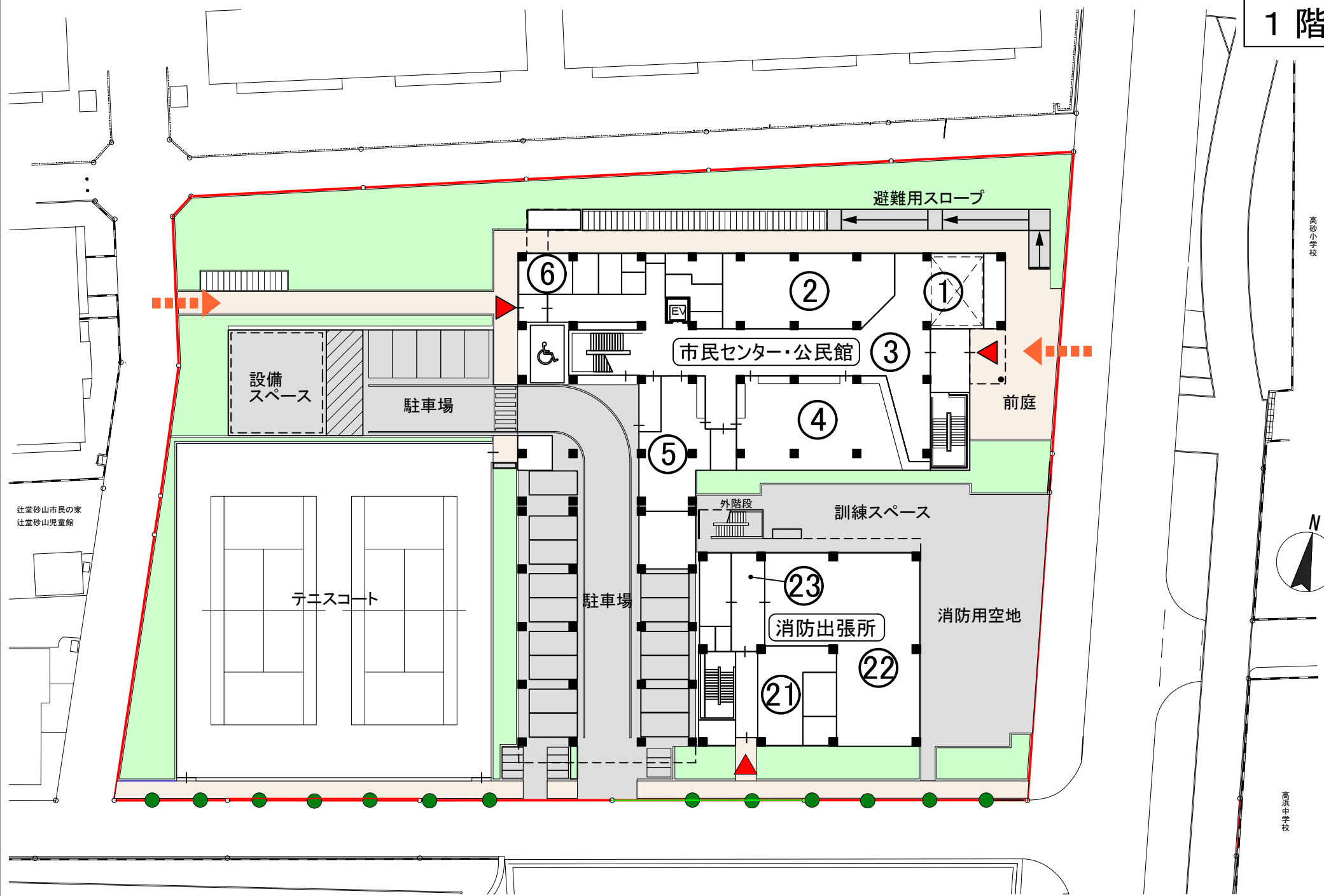
市民センター・公民館			
	主要諸室	計画面積	
1階	1 地域交流スペース	72 m ²	3階
	2 図書室	134 m ²	
	3 ロビー	140 m ²	
	4 事務室	164 m ²	
	5 地域包括支援センター	82 m ²	
	6 地区ボランティアセンター	23 m ²	
2階	7 体育室	426 m ²	
	8 防災備蓄倉庫	71 m ²	
	9 地域団体作業室兼地区防災拠点本部室	43 m ²	
	10 談話室(1)	51 m ²	
	11 談話室(2)	62 m ²	
	12 工作室兼談話室	82 m ²	
	13 実習室	64 m ²	
	14 和室	59 m ²	
	15 保育室	50 m ²	

消防出張所		
	主要諸室	計画面積
1階	21 事務室	58 m ²
	22 車庫	245 m ²
	23 防火衣ロッカー室	31 m ²
2階	24 食堂・厨房・休憩	50 m ²
	25 浴室・洗面・洗濯	46 m ²
	26 仮眠室	90 m ²
	27 更衣室	31 m ²
3階	28 分団待機室	60 m ²
	29 高機能訓練室	62 m ²
	30 トレーニング室	24 m ²

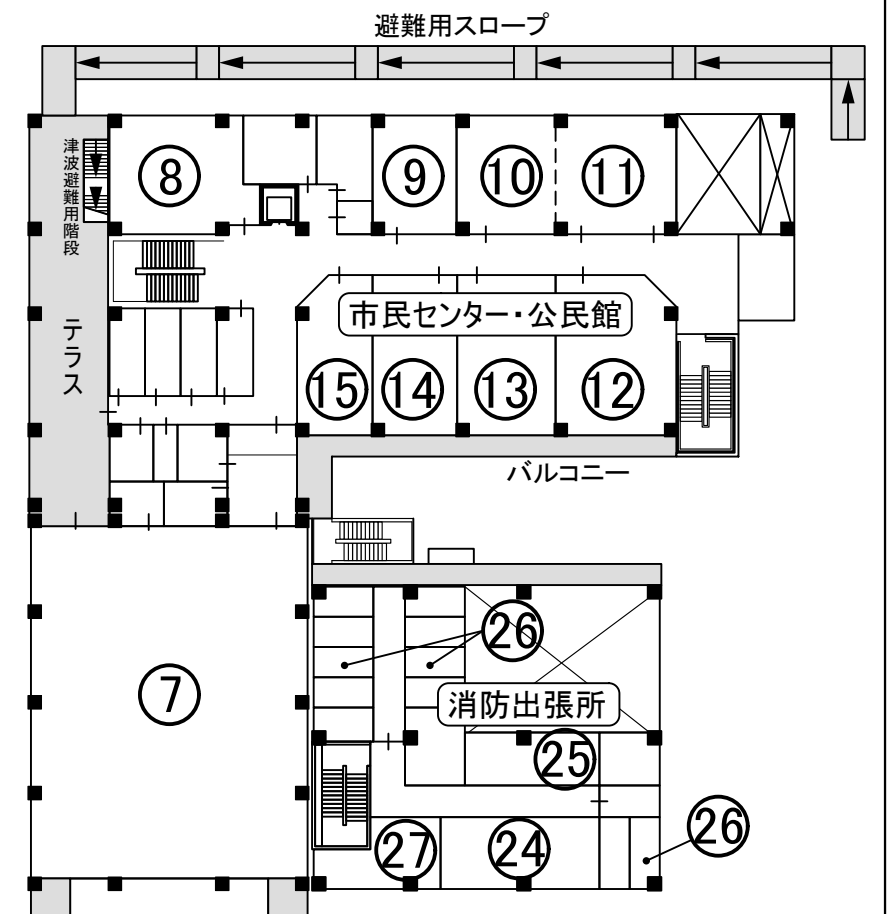
3階



1階



2階



これまでの辻堂市民センター等再整備説明会などでの主なご質問・ご意見

	ご質問	市側回答
1	なぜ消防出張所を複合化するのか。辻堂市民センター跡地に単独で建てる方がよいのでは。	現消防出張所の前面道路渋滞に伴う消防車両の出動上の課題解決に加え、地区防災拠点である市民センターとの平常時からの緊密な連携が図れ、さらに災害時の避難施設である周辺小中学校と隣接することで辻堂地区の地域防災力が高まります。
2	地域住民の声を聞いて計画を進めてください。	基本構想策定に際しては、これまでも地区説明会や近隣説明会などを通じてご意見を伺いながら進めてまいりました。また基本設計の検討を開始してからは、利用者アンケートに加え、グループ討議形式の意見交換会を開催するなど、意見集約の場づくりを行ってきました。今後も引き続きご意見を伺いながら進めてまいります。
3	北側住宅に対する日影の影響が心配だが配慮しているのか。	北側住宅への日影が法規制内であることは当然に遵守し、より日影の影響を少なくするための建物配置や形状を基本設計の中で検討し進めてまいりましたが、現在の元県職員住宅による日影の範囲より、部分的には日影の影響が広がる見込みとなっています。
4	高浜中学校敷地内にテニスコートを2面作って、再整備予定のテニスコートを全て移せませんか。	中学校内北側敷地には部活動に望ましい面積のテニスコートを配置するための広さはありませんので、2面を設置することはできません。他の部活動と共用しながら部活動が行えるよう、サブグラウンド1面の整備を計画しています。
5	再整備予定地は津波の浸水域ではないのですか。	平成27年3月に神奈川県が公表した最大津波浸水予測の詳細を確認したところ、再整備予定地の南東の一部で10cm以内の浸水予測となっています。現時点の配置計画においては庁舎への浸水はありません。

	ご質問	市側回答
6	小中学校の前で、車両増加による交通事故が心配です。	学校前の道路は、歩道が通りの両側を合わせて15mの幅員で車道より広く、さらに学校側歩道は歩行者と自転車の区分けがされ植栽もあることから道路環境は整っていると捉えています。市民センター来庁車両に対しては、注意喚起等の対応を図り安全性の確保に努めてまいります。また、消防車両の運転については、車両運行教育の合格者のみが運転しますが、同乗している複数隊員による安全確認により安全性を確保してまいります。
7	近隣や学校に緊急自動車のサイレン音による影響はありませんか。	消防車、救急車のサイレン音は、道路運送車両法の規定により、車両前方20mの位置において90デシベル以上120デシベル以下とされています。安全管理上支障がない場合については、法で定められた下限まで音量を下げる等、周辺環境への配慮を図ってまいります。出勤頻度の高い救急車については、徐々に音量が大きくなる機能などを付加したものを採用してまいります。
8	地域交流スペースと図書室は交流ができるようなオープンな場にしてほしい。	地域交流スペースと図書室が隣接した配置は新施設の特徴の一つでもあります。この二つが隣接することから連携を図った場となるよう設計面での検討を現在進めています。図書室としての管理面を考慮しながら、連携による地域のふれあいの場として、利用者等のご意見を伺いながら引き続き検討してまいります。
9	建設検討委員会の資料や議事録を公開するなど情報提供をしてほしい。	建設検討委員会の資料については、会議終了後に議事概要とともに、市民センターで閲覧を行っております。また、会議の開催日時と検討項目については、事前に市民センターのホームページに掲載しております。

辻堂市民センター・公民館、消防出張所配置案の比較検討

●現在進めている基本設計案と住民提案による南側配置案の比較

比較項目	現在進めている基本設計案	住民提案による南側配置案
配置図		
1 施設の分り易さとアクセス性	市民センターの位置が多くの利用者にわかりやすい。	市民センターの位置が奥まっていますのでわかりにくい。
2 交通上の安全性	駐車場出入口を南側に配置することにより、東側歩道の歩行者等と車両の動線の交差を最小限に出来る。	車両の出入り口が東側道路に集中しているため、東側歩道の歩行者等と車両の動線の交差が多い。
3 自転車動線の安全性	東側道路からアプローチしやすい位置に駐輪場を配置し、駐車場内での自動車との交差をなくしている。	東側道路からの自転車は、駐車場の自動車との動線の交差が多い。
4 基本コンセプトの具体化（防災）	「防災機能を強化する」というコンセプトを達成するため、福祉避難所とする体育室を2階に配置し、津波浸水への配慮をしている。	体育室を1階に配置している。（2階も考えられる）
5 北側への配慮（日照）	建物を可能な限り南側にずらすと共に、北側外壁に勾配をつけて北側に対する日照に配慮している。	建物を南側一列に配置することにより、北側に対する日照に配慮している。
6 北側への配慮（音）	消防出張所からのサイレン音を市民センター建物により北側に対して遮蔽。テニスコート、体育室も北側から離し、住宅への音の影響を小さくしている。	消防出張所と北側住宅の間に遮蔽するものが無く、サイレン音や訓練による音の影響が大きい。またテニスコートが住宅に近く、ボール音や声の影響が生じる。
7 消防出張所の機能	市民センター・公民館と消防出張所の間に訓練スペースを配置することができ、消防用空地との連携利用も図れるため、消防出張所の機能が強化される。	消防訓練スペースが確保しにくく、消防用空地との連携利用も出来ない。（市民センターと消防出張所の間を訓練スペースとすると、合築できなくなってしまう可能性がある）
8 街並みづくり	市民センターの正面が地域の顔となる施設づくりをする事で、東側道路（辻堂グリーン回廊）の街並み形成を促進できる。	東側道路（辻堂グリーン回廊）側施設が消防車庫と駐車場で大抵が占められてしまう
9 施設内の環境（採光、通風）	東側向きの「コの字」に建物を配置することにより、市民センター・公民館へ南側からの採光や通風が得られる。	建物を南側一列に配置することにより、市民センター・公民館へ南側からの採光や通風が得やすい。
10 テニスコートの配置	部活動でテニスをしやすいよう、並列型、南北配置のテニスコートにできる。（並列型の場合、2面の間にフェンス不要）	縦列型、東西配置のテニスコートとなり、部活動がしにくい時間帯が生じる。（縦列型の場合、2面の間にフェンスが必要）
11 複合施設としてのメリット	市民センター・公民館と消防出張所の間に訓練スペースを配置出来、日常から施設利用者が消防訓練を身近に感じ、防災意識の向上につなげられる。	市民センター・公民館と消防出張所が縦列に配置されており、日常から連携できるが、消防訓練スペースを利用した共有部分が少ない。
12 眺望	3階ホール等から東南方向に開いた空間が望める。	南側諸室から南方向に開かれた空間が望める。
13 周辺連携	西側アプローチを配置することで、市民の家、児童館と連携が図りやすい。	市民の家、児童館と位置が近い配置のため、連携が図りやすい。
14 災害時（避難時の経路や災害物資の搬入性）	災害時、テニスコートへのテント設営、救援物資の搬入が可能。災害時には地区防災拠点である市民センターと周辺避難施設（小中学校）が隣接するため、連携・支援が行いやすい。	災害時、テニスコートへのテント設営、救援物資の搬入がしやすい。
15 車両による送迎	2案とも駐車場内での送迎となる。	2案とも駐車場内での送迎となる。
16 維持管理	消防訓練スペースなどの必要な外部空間を検討すると、2案は共に建物形状に工夫が必要となるため、配置計画によりメンテナンス費、水光熱費等に大きな差は出にくいと考えられる。	消防訓練スペースなどの必要な外部空間を検討すると、2案は共に建物形状に工夫が必要となるため、配置計画によりメンテナンス費、水光熱費等に大きな差は出にくいと考えられる。
17 建設費	消防訓練スペースなどの必要な外部空間を検討すると、2案は共に建物形状に工夫が必要となるため、配置計画により建設費に大きな差は出にくいと考えられる。	消防訓練スペースなどの必要な外部空間を検討すると、2案は共に建物形状に工夫が必要となるため、配置計画により建設費に大きな差は出にくいと考えられる。
18 イベント実施環境	ピロティ式駐車場ができたことにより、公民館まつり等のイベント実施の際、雨天時でも有効利用ができる。	公民館まつり等のイベント実施の際、テント会場として利用しやすい。